

# 横浜ゴム 社会に先駆ける 100年のあゆみ

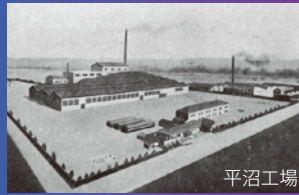
## 1917年～1999年

1917-1937

### 創業期～戦前の成長期

世界の一流品の生産を志して創立

経済性と社会性を重視した  
創業の精神を基に運営。



平沼工場

1938-1950s

### 軍需と拡張・敗戦から復興へ

軍需主導・海外生産と戦後特需の復興

苦難の再開を迎える中  
早くから環境貢献商品の  
開発を行う。



本社・東京支店

#### 当社のできごと

- 1917年 10月13日、BFグッドリッチ社、横浜電線製造(株)の  
合併会社として横浜護謨製造(株)を設立  
米国の先端技術を用いて国産で世界一流のゴム製品の生産を志す。
- 1920年 **タイヤ製造開始**
- 1923年 関東大震災により平沼工場全壊  
BFグッドリッチ社のタイヤを輸入販売しながら、工場の立て直しを図る。
- 1929年 横浜市鶴見区に横浜工場を開業  
社長の中川末吉がこのとき述べた訓話を創業の精神とする。

#### 創業の精神 (要約)

1. 生産事業は社会奉仕なり
2. 優秀品の提供を基本方針とし他の追従を許さず
3. 経営は公平親切を旨とすべし
4. 機械力の充実こそ能率向上の要諦なり
5. 事業の成功のためには大努力を試みるべし

- 1938～  
44年 アジア各国に生産拠点を設立
- 1944年 三重工場開所
- 1945年 横浜工場、空襲により焼失  
(終戦) 国外の全事業所を失う
- 1946年 不屈の精神で再出発  
三島工場製造を開始
- 1951年 平塚工場操業開始

#### 代表的な商品

- 1921年 角耳ベルト独自開発、実用新案登録  
  
日本初のコードタイヤ「ハマタウン・コード」の製造に成功  
タイヤの寿命を3倍に延ばす。
- 1929年 Vベルト国産化開始  
高速運転可能、長寿命、優れた静音性でベルト業界に革命をもたらす。
- 1937年 新タイヤコード採用の「Y型タイヤ」発売  
耐久性などが向上。
- 1940年 再生ゴムの販売を開始
- 1952年 日本初のコードコンベヤベルト発売
- 1954年 日本初のスノータイヤ「Y-29」開発
- 1958年 ゴム系、樹脂系接着剤「ハマタイト」発売  
建築シーリング剤の国産化を目指し、厳しい耐久試験に合格し数々の  
高層建築物に使われる。  
当社初の環境貢献商品である空気式防舷材を開発  
当時は捕鯨船接舷時の緩衝材として捕獲した鯨を使っていたが、  
代替が可能に。

横浜ゴムは2017年に創立100年を迎えます。この100年間さまざまな困難を乗り越え、世の中に先駆けた商品の開発、企業としての取り組みを行ってきました。環境・CSRの取り組みを交え、横浜ゴムが社会に提供し続けてきた価値を紹介します。

## 1960s-1970s 高度成長期

社会的責任をいち早く

公害が社会問題になる中時代を見越して、自社だけでなくサプライチェーンや地域社会に配慮する考えを示す。



尾道工場

## 1980s-1990s バブル経済から低成長時代へ

先駆ける環境対応

世界の低燃費志向化に先駆け日本初のエコタイヤ「DNA」シリーズを発売。



日本初のエコタイヤ「DNA」

社会に先駆ける100年のあゆみ

- 1963年 「横浜ゴム株式会社」に改名
- 1970年 公害防止委員会を設置  
翌年、環境改善部となる。
- 1972年 東京リトレッド(株)を設立し、リトレッド事業を開始
- 1973年 新経営理念を策定  
企業の社会的責任を重視することを目指す。この頃から、下請けや原料供給先、お客さまの段階でも公害を出さないことを示す。
- 1974年 尾道工場操業開始  
工場完全排水クローズドシステムを備える。
- 1977年 乗用車用スチールラジアルタイヤの一部に不具合が発生と発表  
回収・交換措置開始。点検活動など迅速な対応に努める。  
再発防止策を計画・実行する。

- 1983年 PRGR(プロギア)ゴルフ事業に参入
- 1992年 企業理念を策定
- 1992年 三重工場に環境に配慮した  
廃熱利用式廃タイヤ焼却ボイラーが完成
- 1993年 環境保護行動計画を策定
- 1996～97年 フィリピン、タイ、ベトナムに  
生産販売子会社を設立
- 1999年 国内全生産事業所で  
ISO14001を取得



- 1964年 日本初のスパイラル高圧ホース発売  
産業用機械の油圧化を支える。
- 1965年 日本初のジェット旅客機用タイヤ製造販売
- 1967年 乗用車用ラジアルタイヤ  
「G.T.スペシャル」「G.T.スペシャルXX」発売  
これまでのバイアスタイヤの2倍の耐久性であるラジアルタイヤが主流になる。
- 1971年 日本初の乗用車用スチールラジアルチューブレスタイヤ  
「G.T.スペシャル・スチール」発売
- 1976年 北米向けに低燃費タイヤの開発を開始
- 1978年 乗用車用ラジアルタイヤ「ADVAN-HF」発売

- 1980年 ケブラーを使用した乗用車用ラジアルタイヤ  
「ASPEC AX-323」発売
- 1983年 ゴルフボールを発売
- 1988年 代替フロンR134aの透過率を従来品の10分の1に抑えた  
低透過性エアコンホースを販売
- 1990年 横浜ゴム初のトラック・バス用スタッドレスタイヤ「SY 101」発売
- 1991年 運搬物の飛散を防止する円筒型コンベヤベルト  
「FLEX LINE」発売
- 1998年 日本タイヤメーカー初の乗用車用エコタイヤ「DNA」シリーズ  
第1弾として「DNA ES-01」「DNA ES-02」を発売  
このとき燃費性能をデータで示すために用いた「転がり抵抗」は、  
今ではタイヤ低燃費化の指標として使われるようになっている。